

「人間の体はひとつ」。  
患者さん自身を診る全人的な医療を提供します



**総合内科** 北川 泉 先生 / 副院長  
総合内科統括部長・総合診療プログラム責任者

**「断らないスピリッツ」が、最大の特徴です**

当院は、神奈川県藤沢市に位置する急性期の基幹病院です。救急車が多く、いろいろな疾患の人が来ます。それを断らない。「断らないスピリッツ」が、当院が提供する医療の最大の特徴です。初期研修医、専攻医に関わらず、来院する患者さんはすべて受け入れて、何ができるかを懸命に考えて対応します。ジェネラリストとしての視点を大事にしており、臓器で診るのではなく、患者さん自身を全人的に診る力を持てるように教育しています。

**総合内科は、原因がよくわからない疾患を診るのを得意としています。「人間の体はひとつ」で、症状が全身に現れることも少なくありません。患者さんが何に困っているのか、少しずつ解き明かしながら、ある程度疾患が特定されると専門科と協力して治療方針を決めます。また、専攻医が主体となって、チームを与えられて初期研修医に向けてレクチャーを行います。専攻医にとって、ジェネラリストの視点を学び直す場にもなっています。**

専攻医プログラムでは、実践的なスキルと最新の専門知識の習得を支援します



**呼吸器内科** 日比野 真 先生 / 呼吸器内科部長  
内科専攻医プログラム責任者

**呼吸器内科は、疾患の内容や活動性が幅広く、治療法も日進月歩です**

内科専門医を取得してから呼吸器内科専門医へ進むので、内科全般を土台にして幅広く診れることを目指しています。呼吸器は疾患の内容や活動性が幅広く、がんもあれば、新型コロナウイルスなどの感染症、膠原病や血管の肺塞栓なども診療します。ICUの集中治療から一般病棟、外来、訪問での人工呼吸器管理など、深さも広さもかなり幅広いのが特徴です。患者さんはとても多くて、とりわけ肺がん治療は日進月歩ですから非常に人材がほしい分野です。

**3年目以降のサブスペシャリティは、興味のある分野にどんどん挑戦して**

内科の専攻医プログラムでは、標準的な医療を確実にこなせることを目指します。そのうえで、内科専門医とサブスペシャリティ専門医によって、実践的なスキルと最新の専門知識の習得を支援します。研修3年目の時点で、医者人生がこの選択で決まると硬く考える必要はありません。興味のある分野に挑戦して、ほかのことを試したくなったら、転科してもよいのです。いくらでも方向を変えることはできるので、自分を追い込まずに考えてください。

## MESSAGE FROM A MEDICAL SPECIALIST

### 専攻医メッセージ

当院で初期研修を受けて、そのまま専攻医で残り3年目です。外科志望ですが、内科的管理をしっかり身につけるために、内科を専攻しました。現在、患者さんを50人担当しています。これだけの人数の患者さんに対して、主治医という立場で治療方針を決め、退院調整までを3年目の医師が任されるのはかなり珍しいと思います。急性期の治療をしながら、地域

に特有の限られた医療資源のなかで、その患者さんにとって退院後の最善とは何かを考え、臨機応変な対応が求められます。初期研修を含めて内科で3年経験を積んでから、外科で3年間研修を受ける予定です。その後の進路は決めていませんが、エースで4番、この人がいれば大丈夫と周囲から信頼される医師になることが目標です。



専攻医 / 内田 陽

### 専攻医メッセージ

当院で初期研修を受けました。医局がひとつで、いろいろな科の先生方に相談するときに垣根が低く雰囲気がとてもよかったのが、病院選びの決め手になりました。当時は働き方改革が導入される前で、当直明け勤務の眠さやしんどさはありませんでしたが、いい同期に巡り合えた2年間でした。専攻医研修もここを選んだのは、当院に来て内科のイメージが変わったからです。何でも

診るアクティブな内科で、患者さんの数が多い医師は座る暇もないくらい一生懸命に働いています。当初は外科や産婦人科を進路に考えていましたが、こういう内科の医師になりたいと思うようになりました。5年目になるので、幅広くジェネラリストとして患者さんを診れるようになったうえで、呼吸器内科を専門にしようと思っています。



専攻医 / 比嘉 ひかり